

2024 年度

日本医学会年次報告

2025 年 2 月 21 日

日本医学会

目次

1. 日本医学会総会1
1) 「第 32 回日本医学会総会 2027」の準備1
2. 日本医学会幹事会2
3. 日本医学会臨時幹事会2
4. 日本医学会定例評議員会3
5. 日本医学会臨時評議員会3
6. 日本医学会シンポジウム3
1) 日本医学会シンポジウム3
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会3
3) 日本医学会シンポジウム記録4
4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨4
7. 日本医学会公開フォーラム4
1) 日本医学会公開フォーラム4
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会4
3) 日本医学会公開フォーラム記録5
8. 日本医学会協議会5
9. 日本医学会正副会長会議5
10. 日本医学会医学用語管理委員会5
11. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ6
12. 不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ6
13. 用語標記基本指針策定ワーキンググループ7
14. 日本医学会分科会用語委員会7
15. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会7
16. 日本医学会加盟検討委員会9
17. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会9
18. 日本医学会利益相反委員会9
19. 日本医学会分科会利益相反会議10
20. 日本医学雑誌編集者組織委員会10
21. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム10
22. 研究倫理教育研修会11
23. 日本医学会総会あり方委員会11
24. 再生医療等レジストリ協議会11
25. 移植関係学会合同委員会12
26. 出生前検査認証制度等運営委員会12
27. 日本医学会 e-News13
28. 情報発信13
29. 会議等の開催数13
30. その他14

綴じ込み

日本医学会 e-News No.9	……………15
日本医学会 e-News No.10	……………16

1. 日本医学会総会

1) 「第 32 回日本医学会総会 2027」の準備

第 32 回日本医学会総会(2027 年)はメインテーマを「医学のレジリエンス～みらいへの挑戦と貢献～」とし、開催の準備を進めている。総会の開催形式としては、現地開催を主として WEB 併用についても組織委員会を中心に討議を重ねている。

2025 年 1 月 10 日現在、決定している概要を下記に記載する。

①学術委員会

- ・臨床系, 基礎系, 社会系, 医工・産学連携系の 4 サブグループの学術委員より現在約 35 セッションの企画内容が提出されており, 委員長を中心に確認をおこなっている。
- ・U40 委員を任命しており, 2025 年より企画検討に入る。
- ・日本看護協会, 日本歯科医師会, 日本薬剤師会, 日本病院薬剤師会と連携し, 各協会との共同企画を今回も検討する予定である。
- ・試みとして 143 の加盟学会宛てに, その 2 学会以上が共同で企画する分科会連携シンポジウムの公募を行う予定である。
- ・会頭枠企画として「医療政策」「国民皆保険」「国際医療貢献」「医学の歴史探訪」などをテーマとしたセッションを検討している。

②産業医委員会

- ・日本医師会より第 31 回総会あてに出された申し送り事項をもとに, 第 32 回より委員会として新設した。
- ・日本医師会および大阪府医師会とのキックオフミーティングをすでに実施しており, サテライト会場の開設についてもご賛同をいただいている。使用会場などを再度大阪府医師会と協議して講師選定に入る予定である。

③総務委員会

- ・講演会場は大阪国際会議場をはじめ, 20 数か所を確保している。
- ・各省庁はじめ医療関係者およびメディアへ後援名義使用の申請を行っている。

④登録委員会

- ・参加登録の開始時期を会期半年前の「2026 年 10 月 1 日(木)」とする予定であり, あわせて産業医セッション申込みも開始できるように準備を進める。

⑤展示・イベント委員会

【学術展示】

- ・以下の大テーマと小テーマを定めた。

大テーマ: 「人生 100 年時代をどう生きるか」

小テーマ(カテゴリー・キーワード):

「感染症への挑戦」「ここまできた再生医療」「ガンの克服」「遠隔診療の最前線」

「診断技術の最前線」「災害と医療」

【市民展示】

- ・コンペを行い, 運営事務局に株式会社電通を選定した。
- ・「いのち・健康・みらい博」と銘打つことが決定した。

⑥広報委員会

- ・書家の紫舟氏に「医学のレジリエンス」の書を依頼。現在ポスター案を作成中。

⑦式典委員会

- ・市民展示の開会式と閉会式はうめきたエリアにて、学術講演会の開会式と閉会式は大阪国際会議場にて開催することとしている。
- ・学術講演会開会式の前日に開催される会頭招宴はリーガロイヤルホテル大阪にて検討中である。

⑧財務委員会

- ・寄付金および協賛・出展の依頼を行うべく準備を進めている。

⑨記録委員会

- ・記念新書の制作を検討しており、岩波書店に打診中である。
- ・医学に触れてもらうべく、子供向けマンガや動画の制作を検討している。

⑩ダイバーシティ推進委員会

- ・セッション開催や展示を検討している。

⑪ソーシャルイベント委員会

- ・大阪府医師会と開催に向けて協議を進めている。

<事務局>

第32回日本医学会総会 事務局 E-mail: office@isoukai2027-osaka.jp

<学術講演会・学術展示 運営事務局>

株式会社コングレ 大阪本社内 E-mail: isoukai2027@congre.co.jp

<市民展示 運営事務局>

株式会社電通内 E-mail: shimintenji2027@dentsu.co.jp

2. 日本医学会幹事会

第2回日本医学会幹事会を、2025年2月21日にweb開催した。主な議題は、「2024年度日本医学会年次報告」「2025年度日本医学会事業計画」「日本医学会加盟学会」等である。

3. 日本医学会臨時幹事会

2025年2月21日に開催予定であった日本医学会臨時幹事会は時間的制約があったことから、協議事項についてメールにて幹事より事前に了承を得た。主な議題は『「日本医学会役員数の変更について」を議題とする臨時評議員会の開催」「日本医学会連合の役員数変更に伴う日本医学会役員数の変更」についてである。

4. 日本医学会定例評議員会

第92回日本医学会定例評議員会を、2025年2月21日にweb開催した。主な議題は、「2024年度日本医学会年次報告」「2025年度日本医学会事業計画」「日本医学会加盟学会」等である。

5. 日本医学会臨時評議員会

日本医学会臨時評議員会を2025年2月21日にweb開催した。主な議題は「日本医学会役員数の変更」についてである。

6. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

本年度は次のとおり、2回開催した。

・第164回日本医学会シンポジウム

テーマ:がん予防、医療、共生の現在とこれから

開催日:6月15日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂

組織委員:武富紹信(北海道大学消化器外科学教室I教授),吉野孝之(国立がん研究センター東病院副院長)

参加者数:73名

・第165回日本医学会シンポジウム

テーマ:災害医療の現状と今後の課題

開催日:11月16日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂

組織委員:大友康裕(国立病院機構災害医療センター病院長),磯博康(国立国際医療研究センターグローバルヘルス政策研究センターセンター長)

参加者数:100名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

委員は高柳広(東京大学大学院医学系研究科教授・免疫学),野田泰子(自治医科大学医学部教授・解剖学),青木茂樹(順天堂大学医学部教授・放射線医学),藤尾圭志(東京大学大学院医学系研究科教授・アレルギーリウマチ内科学),松本守雄(慶応義塾大学医学部教授・整形外科),武富紹信(北海道大学大学院医学研究院教授・消化器外科学),野原理子(東京女子医科大学教授・衛生学公衆衛生学),東尚弘(東京大学大学院医学系研究科教授・公衆衛生学)の8名で構成されており,シンポジウムの基本方針,テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。本年度は次のとおり開催した。

・第1回日本医学会シンポジウム企画委員会(5月22日)

第 165 回のテーマ案について検討がなされた。

第 165 回テーマ: 災害医療の現状と今後の課題

・第 2 回日本医学会シンポジウム企画委員会(10 月 17 日)

第 166 回のテーマ案について検討がなされた。

第 166 回テーマ: 宇宙医学の展望～有人宇宙飛行の飛躍の時代にむけた医学

3) 日本医学会シンポジウム記録

日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」で「第 164 回日本医学会シンポジウム」「第 165 回日本医学会シンポジウム」の映像を配信した(<https://jams.med.or.jp/>)。

4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨

講演要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。

「第 164 回日本医学会シンポジウム」: 第 153 巻 5 号

「第 165 回日本医学会シンポジウム」: 第 153 巻 10 号

7. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

本年度は次のとおり、2 回開催した。

・第 35 回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ: 糖尿病, 肥満症診療の進歩と問題点

開 催 日: 6 月 8 日(土)

開催場所: 日本医師会館 大講堂

組織委員: 綿田裕孝 (日本糖尿病学会常務理事/順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学教授), 山内敏正 (日本肥満学会副理事長/東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授)

参加者数: 93 名

・第 36 回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ: 全ての診療領域の基礎となるゲノム医療～ゲノム医療推進法の基本計画策定に際し考慮すべきこと～

開 催 日: 10 月 5 日(土)

開催場所: 日本医師会館 大講堂

組織委員: 福嶋義光 (信州大学医学部遺伝医学教室特任教授), 間野博行 (国立がん研究センター研究所長)

参加者数: 50 名

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

委員は岡明(埼玉県立小児医療センター病院病院長), 小野稔(東京大学大学院医学系研究科教授・心臓外科), 今村英仁(日本医師会常任理事), 永山悦子(毎日新聞社論説委員),

松本守雄(慶應義塾大学医学部教授・整形外科), 南砂(読売新聞東京本社常務取締役/調査研究担当), 綿田裕孝(順天堂大学大学院医学研究科教授・代謝内分泌内科学)の7名で構成されており, 公開フォーラムの基本方針, テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。本年度は次のとおり開催した。

・第1回日本医学会公開フォーラム企画委員会(5月22日)

第36回のテーマ案について検討がなされた。

第36回のテーマ: 全ての診療領域の基礎となるゲノム医療～ゲノム医療推進法の基本計画策定に際し考慮すべきこと～

・第2回日本医学会公開フォーラム企画委員会(10月17日)

第37回のテーマ案について検討がなされた。

第37回のテーマ: 認知症医療の新時代を迎えて

3) 日本医学会公開フォーラム記録

日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」で「第35回日本医学会公開フォーラム」「第36回日本医学会公開フォーラム」の映像を配信した(<https://jams.med.or.jp/>)。また, 全国の大学院医学系研究科長/大学医学部長・医科大学長宛に映像配信についての周知依頼を発出した。

8. 日本医学会協議会

毎月1回, 会長・副会長, 日本医師会担当副会長・常任理事で定期的で開催している。

9. 日本医学会正副会長会議

2024年より新たに発足した会議で, 日本医学会の会長, 副会長で3ヶ月に一回程度開催している。

本年度は第1回を5月10日, 第1回臨時会議を6月25日, 第2回を10月8日に開催し, 第3回を2025年2月28日に開催予定である。

10. 日本医学会医学用語管理委員会

委員長: 大江和彦(東京大学大学院医学系研究科教授・医療情報学), 副委員長: 南学正臣(東京大学大学院医学系研究科教授・腎臓・内分泌内科学), 委員: 安西尚彦(千葉大学大学院医学研究院教授・薬理学), 石川俊平(東京大学大学院医学系研究科教授・衛生学), 今井健(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・医工情報学), 荻島創一(東北大学高等研究機構未来型医療創成センター教授), 小野木雄三(国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授), 神庭重信(九州大学名誉教授), 久具宏司(国際医療福祉大学成田薬学部教授/

山王病院産婦人科), 齊藤光江(順天堂大学大学院医学系研究科特任教授・乳腺腫瘍学), 坂井建雄(順天堂大学保健医療学部特任教授・理学療法学), 辻省次(国際医療福祉大学ゲノム医学研究所教授), 森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学)の13名と協力会社2社により構成されている。

本年度は第6回を7月30日に開催した。

11. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

遺伝学に関する用語は, 医学, 教育, 社会において広い分野で関係することから, 日本医学会としては十分な検討の上, プロセスを踏んでコンセンサスを形成することが重要と考え, 医学用語管理委員会の下にワーキンググループを設けて検討を行っている。座長: 辻省次(国際医療福祉大学ゲノム医学研究所教授), 委員: 柏井聡(愛知淑徳大学非常勤教授・健康医療科学), 久具宏司(国際医療福祉大学成田薬学部教授/山王病院産婦人科), 櫻井晃洋(札幌医科大学医学部教授・遺伝医学), 戸田達史(東京大学大学院医学系研究科教授・神経内科学), 小崎健次郎(慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター教授), 榎屋啓志(理化学研究所バイオリソース研究センター統合情報開発室室長), 森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学)の8名で構成されている。

本年度は第14回を12月12日に開催し, 第1グループ(優先度が高く, これまでの討議で一定の結論が得られているグループ)の variant, variation, mutation, polymorphism, 第2グループ(第1グループの次に検討を行うグループ)の allele, genotype について, それぞれ検討を行った。

12. 不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ

座長: 森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学), 委員: 大植孝治(兵庫医科大学・小児外科), 柏井聡(愛知淑徳大学非常勤教授・健康医療科学部), 久具宏司(国際医療福祉大学成田薬学部教授/山王病院産婦人科), 小崎健次郎(慶應義塾大学臨床遺伝学センター教授), 古庄知己(信州大学医学部教授・遺伝学), 山本哲哉(横浜市立大学大学院医学研究科教授・脳神経外科学), 水野稚香(宮城県立子ども病院部長・整形外科), 彦坂信(国立成育医療研究センター診療部長・形成外科), 丹羽隆介(筑波大学生存ダイナミクス研究センター教授), 榎屋啓志(理化学研究所バイオリソースセンター統合情報開発室室長), 三木崇範(香川大学医学部教授・神経機能形態学), 神庭重信(九州大学名誉教授), 武田裕子(順天堂大学大学院医学研究科教授・医学教育学), 門野岳史(聖マリアンナ医科大学主任教授・皮膚科学)の15名で構成されている。病名や疾患名, 置換えが望ましいが検討の余地がある用語, 「奇形」以外で不適切な用語, 不適切な人名の付いた用語等を検討している。本年度は開催されなかった。

13. 用語表記基本指針策定ワーキンググループ

本ワーキンググループは、医学用語における用語の表記方法の基本方針を策定することを目的としている。座長：久具宏司(国際医療福祉大学成田病院教授)，委員：坂井建雄(順天堂大学保健医療学部特任教授・理学療法学)，今井健(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・医工情報学)，神庭重信(九州大学名誉教授)，森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学)，西嶋佑太郎(京都府立洛南病院)，笹原宏之(早稲田大学社会科学総合学術院教授・社会科学部)の7名で構成されている。

本年度は第2回を10月2日，第3回を11月5日に開催した。1)漢字に関すること，2)カタカナに関すること，3)記号，区切り文字，書体，全般に関することを検討している。

14. 日本医学会分科会用語委員会

本年度は，2025年1月15日にweb開催した。

清水貴也厚生労働省国際分類情報管理室室長から「ICD-11 国内適用に向けた準備状況について」の講演があったほか，各ワーキンググループからの報告，日本医学会医学用語辞典WEB版のメンテナンス報告，質疑応答等があった。内容については日本医学会ホームページに掲載予定である。

15. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は，日本医学会が日本医師会より委任されているもので，本年度は8月23日に開催された。

委員に加え，特例委員として，竹田潔(大阪大学大学院医学系研究科教授・免疫制御学)，尾島俊之(浜松医科大学医学部教授・健康社会医学)，室原豊明(名古屋大学院医学系研究科教授・循環器内科学)，光富徹哉(和泉市立総合医療センター総長・呼吸器外科学)，戸田正博(慶應義塾大学医学部教授・脳神経外科学)，村上信五(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター特任教授・耳鼻咽喉科学)，永瀬智(山形大学医学部教授・産科婦人科学)，小野 稔(東京大学大学院医学系研究科教授・心臓外科学)の8名が加わった。

結果は，次のとおり医学賞4名，医学研究奨励賞15名が選考され，11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお，医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌(第153巻第10号)に掲載した。

[2024年度日本医師会医学賞]

- ・ DOCKファミリー分子の生体機能と動作原理に関する統合的研究
福井宣規／九大生体防御医学研・免疫細胞生物学
- ・ がんの精確な情報発信と研究体制基盤整備によるわが国のがん対策推進の礎となる体制づくりへの貢献

祖父江友孝／阪大・がん疫学・公衆衛生学

- ・個別化がん治療に必要なバイオマーカー研究による世界初がんエピゲノム体外診断薬の開発

石岡千加史／東北大・腫瘍内科学

- ・分娩に関する分子機構解析から安全な医療体制確立までの研究

木村 正／堺市立病院機構・産科

[2024 年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・血管炎症・免疫制御メカニズムの解明に基づく動脈硬化性疾患の克服

安達裕助／東大・循環器内科学

- ・スフィンゴシン 1-リン酸受容体に焦点を当てた血管の弾性線維異常の解明

齋藤純一／Yale University・循環器内科学

- ・オートファジー非依存的フェロトーシスの制御による β プロペラタンパク関連神経変性症(BPAN)の根本的治療法探索

藤巻基紀／筑波大・脳神経内科

- ・シングルセルとゲノムの統合解析による全身性強皮症の血管病変の病態解析

石川優樹／理化学研・リウマチ・膠原病

- ・脂肪萎縮症における眼合併症および眼内脂質代謝異常のメカニズム検証

寺尾 亮／東大・眼科学

- ・メタボロミクスを用いた病的近視の病態解明と新規治療薬の開発

富田洋平／慶大・眼科学

- ・保健医療ビッグデータとホワイトボックス AI の融合による非感染性疾患(NCDs)リスクの解明：臨床疫学的探索

藤原和哉／新潟大・血液・内分泌・代謝内科学

- ・心不全における精密医療

野村征太郎／東大・循環器内科学

- ・がん種横断的大規模ゲノム解析による遺伝子異常の意義の解明

斎藤優樹／国立がん研・分子腫瘍学

- ・ミトコンドリア電子伝達系リモデリングをターゲットとした糖尿病関連腎臓病の新規治療戦略

三瀬広記／岡山大・腎・免疫・内分泌代謝内科学

- ・全身性エリテマトーデスの新規診断マーカーならびに治療薬の開発

河野通仁／北大・リウマチ・腎臓内科

- ・ポリジェニックおよびメチル化リスクスコア相互作用に基づく統合失調症と双極症の病態解明

大井一高／岐阜大・精神医学

- ・生体肝移植における **Operational Tolerance** を目指した個別化免疫抑制療法の開発

田嶋哲也／京大・肝胆膵・移植外科学

- ・霊長類モデル動物を用いた霊長類特異的な感音難聴の分子生物学的メカニズムの解明と新規治療標的の探索

- 細谷 誠／慶大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
・卵巣がん患者体液中エクソソーム解析による新規診療モデル開発研究
横井 暁／名古屋大・産婦人科学

16. 日本医学会加盟検討委員会

13名の委員により構成されており、第1回を12月18日に開催した。本年度の加盟申請の20学会についての審査を慎重に行い、その結果を1月31日開催の日本医学会協議会に提出した。本審査は、日本医学会加盟検討委員会報告(2021年5月)に示された審査基準に基づいて行われている。

17. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長:福嶋義光(信州大学医学部遺伝医学部特任教授), 委員:青野由利(科学ジャーナリスト/毎日新聞客員編集委員), 苛原稔(徳島大学特命教授), 尾崎紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科特任教授), 鎌谷洋一郎(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授・メディカル情報生命専攻複雑形質ゲノム解析分野), 杉浦真弓(名古屋市立大学大学院医学研究科教授・産婦人科学), 高田史男(北里大学大学院医療系研究科教授・臨床遺伝医学), 中村清吾(昭和大学臨床ゲノム研究所所長/大学病院プレストセンター長/乳腺外科特任教授), 中山智祥(日本大学医学部医学科教授・臨床検査医学分野), 松原洋一(国立成育医療研究センター理事), 山内敏正(東京大学大学院医学系研究科教授・糖尿病・代謝内科)の11名で構成されている。

本年度は第34回を6月26日, 第35回を11月22日, 第36回を12月23日に開催し, 「日本医学会『良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律』に関する提言」(2024年3月)の発出後の経緯, 日本産科婦人科学会からのPGT-Mに関する要望等について検討を行った。

18. 日本医学会利益相反委員会

委員長:土岐祐一郎(大阪大学大学院医学系研究科教授・消化器外科学), 副委員長:寺内康夫(横浜市立大学大学院医学研究科教授・分子内分泌・糖尿病内科学), 委員:石岡千加史(JR東北病院院長), 植木浩二郎(国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長), 荻田香苗(杏林大学医学部教授・衛生学公衆衛生学), 寺井崇二(新潟大学大学院医歯学総合研究科教授・消化器内科学), 浅井文和(日本医学ジャーナリスト協会会長/元朝日新聞社編集委員), 小笠原彩子(南北法律事務所弁護士), 小島多香子(東京医科大学国際教育センター長/教授)の10名で構成されている。

本年度は第1回を1月16日に開催した。「日本医学会143分科会における利益相反(COI)対応の現状アンケート」結果の報告や、論文投稿におけるCOI手続きの簡略化、COIのデータベース、第9回研究倫理教育研修会の講演テーマや演者等について議論を行った。

19. 日本医学会分科会利益相反会議

2024年度は開催されなかった。

20. 日本医学雑誌編集者組織委員会

委員長:北村聖(東京大学名誉教授/地域医療振興協会顧問), 副委員長:武田裕子(順天堂大学大学院医学研究科教授・医学教育学), 委員:有馬寛(名古屋大学大学院医学系研究科教授・糖尿病・内分泌内科学), 遠藤格(横浜市立大学大学院医学研究科教授・消化器・腫瘍外科学), 木内貴弘(東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワークセンター教授), 北川正路(東京慈恵会医科大学国際交流センター課長), 黒沢俊典(特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会データベース事業部次長), 中山健夫(京都大学大学院医学研究科教授・健康情報学), 林和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長), 吉岡俊正(東都大学学長)の10名と, オブザーバー:久保田壮一(国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)情報基盤情報部研究成果情報グループ調査役), 吉田幸苗(国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課課長), 城井康信(株式会社メテオ調査役)の3名で構成されている。

本年度は第29回を9月17日に開催した。WPRIM(WHO 西太平洋地域医学情報データベース)/APAME(アジア太平洋医学雑誌編集者会議)2024年会議報告や医学雑誌編集に関する最近のトピックの紹介, 第13回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第13回シンポジウムの企画等の議論が行われた。

21. 日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・シンポジウム

第13回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第13回シンポジウムを2025年1月7日に開催した。当日の映像および抄録等詳細については、後日、日本医学会ホームページに掲載する予定である。第13回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会に引き続き、第13回シンポジウムは、北村聖(日本医学雑誌編集者組織委員会委員長/東京大学名誉教授/地域医療振興協会顧問)の司会の下、「オープンアクセス・AI 普及時代の医学雑誌編集」をテーマとして、下記のプログラムで開催された。

- ・基調講演:世代間を超えた医学雑誌編集への取り組み/中山健夫(京都大学大学院医学研究科教授)
- ・日本におけるオープンアクセスの現状と J-STAGE の取り組み/長 未紗(国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)情報基盤事業部研究成果情報グループ主査)

- ・AI 時代における生成 AI を活用した論文執筆のあり方／笠井 大(千葉大学大学院医学研究院 医学教育学講師)
- ・生成 AI を活用した論文の査読のあり方／山本 憲(順天堂大学健康データサイエンス学部教授)

22. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究不正問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学会連合利益相反委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で開催している。なお、日本医学会連合利益相反委員会は 2024 年度から参加することとなった。

本年度は、「変貌を遂げる研究倫理の意味合いとその啓発」をメインテーマに 5 月 7 日に開催し、映像を日本医学会ホームページに掲載した。

23. 日本医学会総会あり方委員会

日本医学会総会のあり方について、中・長期的な展望で検討することを目的としている。委員長:高橋雅英(藤田医科大学国際再生医療センター長)、委員:磯博康(国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長)、今村英仁(日本医師会常任理事)、角田徹(日本医師会副会長)、勝野雅央(名古屋大学大学院医学系研究科教授・神経内科学)、荻田香苗(杏林大学医学部教授・衛生学公衆衛生学)、北川雄光(慶應義塾大学医学部教授・外科学)、齊藤光江(順天堂大学医学部特任教授・乳腺腫瘍学)、坂田泰史(大阪大学大学院医学系研究科教授・循環器内科学)、田中伸哉(北海道大学大学院医学研究院教授・病理学)、中山啓子(東北大学大学院医学系研究科教授・附属創生応用医学研究センター)、南学正臣(東京大学大学院医学系研究科教授・腎臓・内分泌内科学)、細谷紀子(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・放射線分子医学部門)、柳田素子(京都大学大学院医学研究科教授・腎臓内科学)、オブザーバー:澤芳樹(大阪警察病院院長／大阪大学大学院医学系研究科名誉教授・保健学科)の 15 名で構成されている。

本年度は第 3 回を 5 月 31 日に開催した他、第 32 回総会の企画の参考にすることを目的として日本医学会分科会および都道府県医師会を対象に「第 31 回日本医学会総会に関するアンケート調査」(調査期間:2024 年 3 月 13 日～4 月 30 日)を実施した。

24. 再生医療等レジストリ協議会

再生医療等製品の市販後調査・治験等における患者登録システムの効率的な運用を目的として発足した。会の事務局は日本再生医療学会が行う。再生医療製品／臨床研究・臨床試験におけるレジストリ調査のあり方を検討し、実際に調査項目の策定までを行う。全体的なポリシーメイキ

ングを行う再生医療レジストリ検討会と、個々の製品や研究の調査項目の策定を行う再生医療等レジストリ委員会の 2 つの会議体から成る。日本医学会分科会、PMDA、日本再生医療学会と連携をとりながら進めているが、本年度は開催されなかった。

25. 移植関係学会合同委員会

厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。本年度は、第 51 回を 6 月 5 日に書面決議にて開催し、腎臓移植実施施設の認定(2 件)を行った。第 52 回を 2025 年 2 月 14 日に書面決議にて開催し、心臓移植自施設内適応検討判定施設の認定(1 件)を審議中である。

また、2025 年 1 月 9 日の膵臓移植中央調整委員会(栗田卓也委員長)からの膵臓移植実施施設の認定取り下げ(2 件)並びに膵臓移植レシピエント適応基準・適応判定申請書改定の報告を受けて、1 月 22 日に厚生労働省、移植関係学会合同委員会委員・オブザーバー、日本臓器移植ネットワーク、関係学会宛に報告を行った。

・6 月 5 日付(第 51 回)

腎臓移植実施施設認定(2 件)

独立行政法人国立病院機構呉医療センター
国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院

・2 月 14 日付(第 52 回)

心臓移植自施設内適応検討判定施設認定(1 件)(審議中)

東京女子医科大学病院

・1 月 22 日付(報告)

膵臓移植実施施設の認定取り下げ(2 件)

東京女子医科大学病院

京都府立医科大学附属病院

膵臓移植レシピエント適応基準・適応判定申請書改定の報告

26. 出生前検査認証制度等運営委員会

NIPT を実施する非認定施設の増加により、適切なカウンセリングが行われないまま妊婦が NIPT を受検するケースが増えたことが問題視され、厚生労働省より本会に標記委員会の設置を依頼された。2021 年 6 月の臨時評議員会にて承認されている。

本年度は第 9 回を 9 月 25 日に開催し、第 10 回を 2025 年 1 月 27 日～2 月 3 日にメールによる書面審議にて開催した。また第 11 回を 3 月 27 日に開催予定である。

27. 日本医学会 e-News

5月にNo.9を、10月にNo.10を発行した(綴じ込みの「日本医学会 e-News」を参照)。今後も不定期に発行する予定である。

28. 情報発信

日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ(<https://jams.med.or.jp/>)と分科会ホームページをリンクしている。

29. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	12回
日本医学会正副会長会議	3回
日本医学会臨時正副会長会議	1回
日本医学会幹事会	1回
日本医学会臨時幹事会（メール審議）	1回
日本医学会定例評議員会	1回
日本医学会臨時評議員会	1回
日本医学会シンポジウム	2回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	2回
日本医学会公開フォーラム	2回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会医学用語管理委員会	1回
遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ	1回
不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ	0回
用語標記基本指定策定ワーキンググループ	1回
日本医学会分科会用語委員会	1回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	3回
日本医学会利益相反委員会	1回
日本医学会分科会利益相反会議	0回
日本医学雑誌編集者組織委員会	1回

日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE)・シンポジウム	1回
研究倫理教育研修会	1回
日本医学会総会あり方委員会	1回
再生医療等レジストリ協議会	0回
移植関係学会合同委員会	2回
出生前検査認証制度等運営委員会	3回
記者会見	0回

30. その他

- 1)「日本医学会分科会一覧」を9月に作成, 関係各方面に配付した.
- 2)「2025年日本医学会分科会総会一覧」(オンライン版)を2025年1月に作成した.
- 3)「日本医師会年次報告書ー令和6年度ー」および「日本医師会事業報告」に, 日本医学会関係の記事を掲載する予定.



開催報告

第91回日本医学会定例評議員会

2024年2月21日(水)に、WEB(zoom)にて開催された。主な決議事項は1. 2024年度事業計画, 2. 2023年度日本医学会加盟学会の件, 3. 学会の名称変更の件, 4. 「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」に関する提言の件であり、承認をいただいた。日本医学会新規加盟学会は、日本臨床免疫学会の1学会であり、これにより加盟学会は143学会になった。

日本医学会加盟検討委員会

2023年度第1回日本医学会加盟検討委員会を、2023年12月8日(金)にWEB(zoom)で開催した。加盟申請の19学会についての審査を慎重に行い、その結果を2024年1月10日(水)の日本医学会協議会で門協会長に報告した。

イベント情報

第8回研究倫理教育研修会

テーマ「変貌を遂げる研究倫理の意味合いとその啓発」

会期：2024年5月7日(火)

主催：日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、
日本医学会連合利益相反委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、
日本医学会利益相反委員会

日本医師会館大講堂にて日本医学会分科会の各委員会の代表者を対象に現地開催。終了後、ホームページにて映像配信する。

第35回日本医学会公開フォーラム

テーマ「糖尿病、肥満症診療の進歩と問題点」

会期：2024年6月8日(土)

組織委員：綿田 裕孝(日本糖尿病学会常務理事/順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学教授)
山内 敏正(日本肥満学会副理事長/東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授)

市民を対象とした公開フォーラムである。

参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページ参照。

第164回日本医学会シンポジウム

テーマ「がん予防、医療、共生の現在とこれから」

会期：2024年6月15日（土）

組織委員：武富 紹信（北海道大学消化器外科学教室 I 教授）

吉野 孝之（国立がん研究センター東病院副院長）

参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページ参照。

公 示

医学賞・医学研究奨励賞

2024年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日（水）～7月1日（月）。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ（<https://www.med.or.jp/etc/igakusyo/>）からダウンロードできる。

日本医学会への加盟申請

2024年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日（水）に公示（日本医師会雑誌等）し、7月31日（水）に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ（<https://jams.med.or.jp/>）からダウンロードできる。



開催報告

医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月23日(金)に開催し、2024年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会にて、今年度の推薦数：医学賞20、奨励賞34を審査した。

選考の結果、11月1日(金)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

<2024年度日本医師会医学賞>

- DOCKファミリー分子の生体機能と動作原理に関する統合的研究
福井宣規 (九大生体防御医学研・免疫細胞生物学)
- がんの精確な情報発信と研究体制基盤整備による
わが国のがん対策推進の礎となる体制づくりへの貢献
祖父江友孝 (阪大・がん疫学・公衆衛生学)
- 個別化がん治療に必要なバイオマーカー研究による
世界初がんエピゲノム体外診断薬の開発
石岡千加史 (東北大・腫瘍内科学)
- 分娩に関する分子機構解析から安全な医療体制確立までの研究
木村 正 (堺市立病院機構・産科)

<2024年度日本医師会医学研究奨励賞>

- 血管炎症・免疫制御メカニズムの解明に基づく動脈硬化性疾患の克服
安達裕助 (東大・循環器内科学)
- スフィンゴシン1-リン酸受容体に焦点を当てた血管の弾性線維異常の解明
齋藤純一 (Yale University・循環器内科学)
- オートファジー非依存的フェロトーシスの制御による
βプロペラタンパク関連神経変性症 (BPAN) の根本的治療法探索
藤巻基紀 (筑波大・脳神経内科)
- シングルセルとゲノムの統合解析による全身性強皮症の血管病変の病態解析
石川優樹 (理化学研・リウマチ・膠原病)
- 脂肪萎縮症における眼合併症および眼内脂質代謝異常のメカニズム検証
寺尾 亮 (東大・眼科学)
- メタボロミクスを用いた病的近視の病態解明と新規治療薬の開発
富田洋平 (慶大・眼科学)
- 保健医療ビッグデータとホワイトボックスAIの融合による
非感染性疾患 (NCDs) リスクの解明:臨床疫学的探索
藤原和哉 (新潟大・血液・内分泌・代謝内科学)

次ページへ続く

●心不全における精密医療

野村征太郎 (東大・循環器内科学)

●がん種横断的大規模ゲノム解析による遺伝子異常の意義の解明

斎藤優樹 (国立がん研・分子腫瘍学)

●ミトコンドリア電子伝達系リモデリングをターゲットとした
糖尿病関連腎臓病の新規治療戦略

三瀬広記 (岡山大・腎・免疫・内分泌代謝内科学)

●全身性エリテマトーデスの新規診断マーカーならびに治療薬の開発

河野通仁 (北大・リウマチ・腎臓内科)

●ポリジェニックおよびメチル化リスクスコア相互作用に基づく
統合失調症と双極症の病態解明

大井一高 (岐阜大・精神医学)

●生体肝移植におけるOperational Toleranceを目指した個別化免疫抑制療法の開発

田嶋哲也 (京大・肝胆膵・移植外科学)

●霊長類モデル動物を用いた霊長類特異的な感音難聴の分子生物学的メカニズムの解明と
新規治療標的の探索

細谷 誠 (慶大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

●卵巣がん患者体液中エクソソーム解析による新規診療モデル開発研究

横井 暁 (名古屋大・産婦人科学)

イベント情報

第36回日本医学会公開フォーラム

テーマ：「全ての診療領域の基礎となるゲノム医療～ゲノム医療推進法の基本計画策定に際し考慮すべきこと～」

会期：2024年10月5日(土) 13:00～17:05

会場：日本医師会館大講堂

組織委員：福嶋 義光 (信州大学医学部遺伝医学教室特任教授)

間野 博行 (国立がん研究センター研究所長)

市民を対象とした公開フォーラムである。

参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページ参照。

第165回日本医学会シンポジウム

テーマ：「災害医療の現状と今後の課題」

会期：2024年11月16日(土) 13:00～17:05

会場：日本医師会館大講堂

組織委員：大友 康裕 (国立病院機構災害医療センター病院長)

磯 博康 (国立国際医療研究センター

グローバルヘルス政策研究センターセンター長)

参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページ参照。